

令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道蘭越町

自治体名：北海道蘭越町

担当課名：教育委員会

電話番号：0136-55-7826

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	449.78 km ²
人口	4,493人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	95 人
部活動数	7 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

蘭越町唯一の中学校である蘭越中学校では、6つの運動部と1つの文化部があり、吹奏楽部は唯一の文化部である。全校生徒95人のうち吹奏楽部に所属する生徒が14人（15%）で人気のある部活動である。現在は、顧問の教諭のほか、教員退職者である部活動指導員がもっぱら指導に当たっており、学校行事や町の行事などでの演奏を目標に、活動に取り組んでいる。学校のスケジュールにもよるが、現状、平日は木曜日を除く毎日2時間と土曜日2時間の練習時間を確保している。

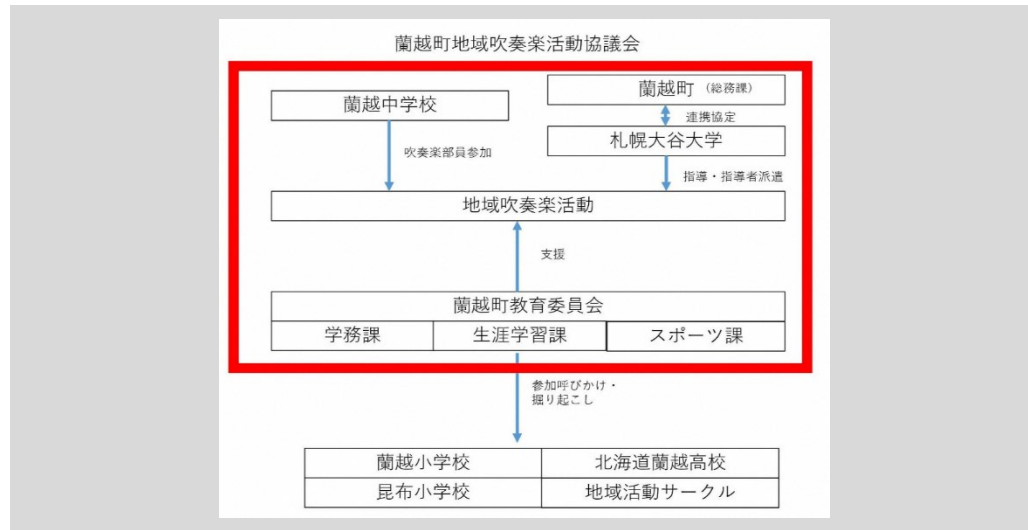
【課題】

本町は、北海道の主要都市である札幌市から車で2時間半、唯一の公共交通機関であるJRで3時間半の位置にあり、人口約4,400人の過疎地域に指定された農村地帯である。少子化及び過疎化で中学生が減少する中、部活動を行う生徒も減少し、十分な活動ができないほか、教員の働き方改革を推進している中で、地域にも十分な指導者がいない。また、地域の小学校及び北海道立の高等学校にも吹奏楽部が存在しない。部員が少ないことから、パート（楽器）ごとの技術、奏法の指導が上級生から下級生に行うことができず、顧問や指導員が苦慮している。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・事業の統括

【学務課】

- ・学校間の連絡調整、学校施設・用品等の使用管理、予算、支出、事故対応

【生涯学習課】

- ・町民団体及び生涯学習サークルとの連絡調整

【スポーツ課】

- ・他の部活動地域移行に向けた調査・研究、意見調整

◎首長部局

- ・連携協定大学との調整

年間の事業スケジュール

令和6年	5月	協議会開催
令和6年	6月	打合せ会議 大学生リモート指導
令和6年	7月	中学校・吹奏楽クラブ合同演奏 （蘭越せせらぎまつり） 大学生リモート指導
令和6年	8月	中学校・吹奏楽クラブ合同演奏 （一灯園ふれあい祭り）
令和6年	9月	大学生リモート指導
令和6年	10月	打合せ会議 中学校・吹奏楽クラブ合同演奏 （きらら共和国独立建国祭） 大学生対面指導・合同演奏会

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	15 人	全体の運営スタッフ数	0人

②クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
蘭越町地域吹奏楽クラブ	地域移行・市区町村運営型	吹奏楽	週 1 回	9~12時	中1 5人 中2 2人 中3 7人 一般 3人	5月~10月	蘭越中学校	15人	0人 (内、兼務0人)	なし	文化祭：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 7月21日 中学校・吹奏クラブ合同演奏（蘭越せせらぎまつり）
- 8月31日 中学校・吹奏クラブ合同演奏（一灯園ふれあい祭り）
- 10月 6日 中学校・吹奏クラブ合同演奏（きらら共和国独立建国祭）
- 10月14日 大学生対面指導・合同演奏会

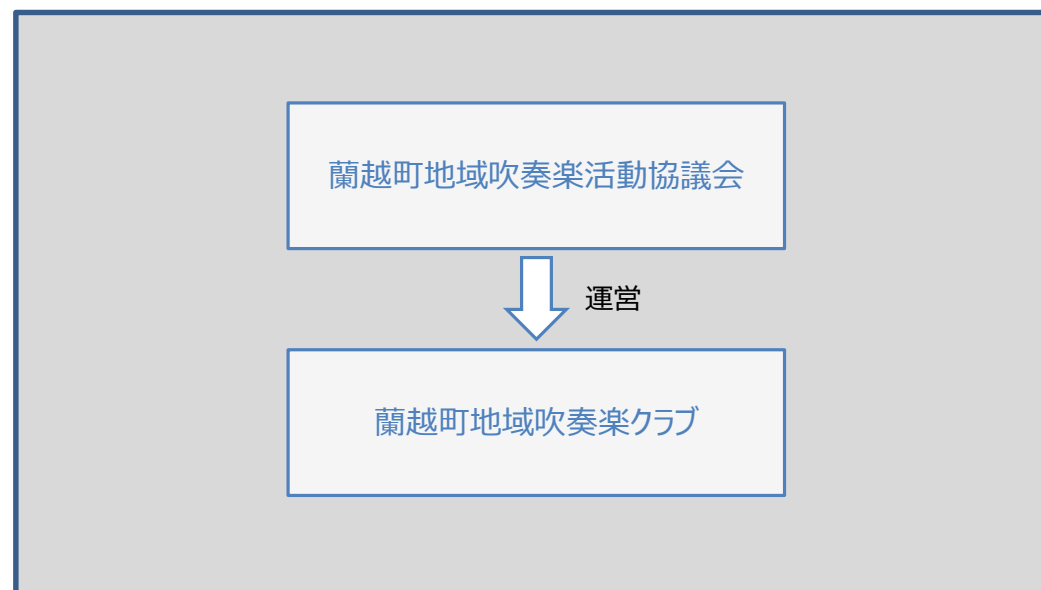
2.実証内容と成果

主な取組例

●蘭越町地域吹奏楽クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	蘭越町地域吹奏楽活動協議会
期間と日数	吹奏楽：5月1日～10月26日 月3回程度
指導者の主な属性	提携大学教授、学生（12人） 部活動指導員、部活動顧問（3人）
活動場所	蘭越中学校音楽室
主な移動手段	スクールバス、現地集合
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	全国町村会総合賠償保険 （保護者負担なし、町費で一括負担）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者：配置なし
- 主任指導者：配置なし
- 運営補助者：配置なし

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会が中心となり、関係団体と連携、調整し、活動組織を設立する。

活動が継続して自立していけるよう、助言と資金手当てを行う。

取組の成果

教育委員会が中心となって、関係団体と調整の上、協議会を設置し、活動に対して助言を行った。

また、町が必要な予算を措置し、資金手当てを行ったことで、地域クラブの活動に必要な指導者として、部活動指導員や大学教授、大学生に依頼し、きめ細やかな質の高い指導を継続的に提供することができ、構成員の楽器奏法の技術向上や吹奏楽の楽しさを提供することができた。

今後の課題と対応方針

教育委員会が中心となることで、継続性は担保されるが、人的労力を相当に要することが課題のため、今後は教育委員会に代わって地域クラブの運営を担う関係団体等の育成や必要に応じ、コーディネーターの配置についても検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

専門的な知識や技術もある大学の協力を受ける。

また、日常の活動や生徒指導、問題発生時の対応に当たるため、現在の部活動指導員の先生に協力をお願いし、活動を行う。

ICTの取扱いについても、大きな課題が確認されたので、その環境づくりに人材を投入できるか、確認を行う。

取組の成果（イ）

地域連携協定を結んでいる札幌大谷大学に協力いただき、主にICTを活用して音楽学科の教授、大学生の指導を受けることで、楽器ごとの専門的知識を得ることができた。

また、地元に住む楽団員にも指導していただくことで、練習日を確保した。

取組事項（ウ）

教育委員会が中心となることで、学校だけでなく生涯学習担当や各種団体との連携調整により、円滑な運営に向けて生徒の参加に係る学校との調整や指導者の派遣等に係る大学との調整を教育委員会が総合的に行う。

取組の成果（ウ）

教育委員会が調整等を行ったことで、調整方法や運営方法もスムーズに整った。

今後の課題と対応方針

ICTを活用するため、音楽学科の教授、大学生からの指導が限定的であるのが課題であるが、指導を受ける機会としては貴重なため、今後も地域連携協定に基づき大学に協力を要請する。

教育委員会が中心となることで、継続性は担保されるが、人的労力を相当に要することが課題のため、教育委員会に代わって運営を担う団体の育成等を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

実現可能性を高め、活動団体の指導を補うため、音楽学科の教授や学生を活用し、リモートによる指導を受ける。

発表会（町芸能文化祭出演、イベント参加）など目標設定をし、町民の多くに活動について関心を持ってもらう。

地元以外の大学生との交流により、情操面での教育的効果も期待できる。

世代間の交流を推進するため、町内全小中学校及び道立高校の児童生徒、町民を対象とする。

活動の詳細

参加人数	17人	指導者数	15人（うち教授1人、大学生11人）
属性	吹奏楽		
具体的な内容	月3回程度の土曜日の練習と年3回のICTを活用した音楽学科の教授及び大学生からの質の高い楽器ごとの指導 中学校吹奏楽部と合同で町芸能文化祭や町イベントに参加		
子供の声	● 大学生が分かりやすく教えてくれました。 ● 演奏を精いっぱい頑張りました。 ● 演奏会を見に来てくれた人に感謝です。 ● 吹奏楽をやって初めての演奏なので、結構緊張しました。		
関係者の声	● 吹奏楽クラブの練習の日は楽しそうに出かけてます。 ● 一生懸命練習に取り組んでくれるので、教え甲斐があります。 ● 初めて演奏する曲の練習が大変・・・でも大好きな曲なので頑張ります。 ● 上手な演奏でびっくりしました。いっぱい練習してるんでしょう。		
運営経費	委託料 400,000円 町負担 98,524円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

演奏会にはたくさんの町民に鑑賞していただくなど、吹奏楽クラブの存在を知ってもらうことができた。

また、演奏会開催を目標に札幌市内の大学生から指導を受けながら練習を重ね、本番を迎えることで、子どもたちの音楽以外の面でも前向きな姿勢を目にすることも増えたと、中学校の教員からも子どもの成長に関して高い評価を受けた。

世代間の交流に関しては、吹奏楽をやりたいという潜在的な町民も参加し、多世代との交流により、中学生に対して音楽指導や情操教育に資する場面があったほか、評判を聞き遠方から参加した方もいた。

また、地域クラブが参加したイベントや演奏会において、興味・関心を示す方もおり、構成員の多数を占める中学生にとっては、普段あまり関わることのない新たな人間関係の構築が図られ、中学生の社会性を育むことにつながった。

今後の課題と対応方針

吹奏楽クラブの取組内容については、指導者や保護者からも高い評価を得ており、中学生や楽団員からも好評であるため、次年度以降も継続して内容の充実を図りたい。

演奏会でたくさんの人に鑑賞してもらうことで、楽団員のモチベーションの向上にもつながるが、高齢化や過疎化が進行している中、現行どおりでは集客の増加は見込めないため、今後は町外へのイベント参加等も検討を行う必要がある。

世代間の交流を推進するため、今後も町内全小中学校及び道立高校の児童生徒、町民を対象とする。

将来的には近隣自治体も巻き込み、地域クラブの広域的な取組みも必要に応じ、検討を行いたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

参加者の使用する楽器については、中学校が保有する楽器を使用貸借する。スコアについては、自己負担。町内の子どもたちについてはGIGAタブレット、学校WiFi、公共WiFiの使用を認める。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

練習場所や使用する楽器は中学校のものを使用し、GIGAタブレット、学校WiFi及び公共WiFiの使用を認めており、参加者の負担が少なくなるよう、配慮している。

■ランニングコストの分析

指導者への諸謝金が大部分を占めているが、参加者も少ないため、現在、参加費用の負担は求めているが、いずれは応分の負担を検討する。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

クラブ活動の運営や指導者配置等に必要なコストを検証し、クラブが持続的に活動していくための受益者負担額の設定について、試算も含めて検討を行う。

収支バランス

クラブ活動経費について、受益者負担と公的資金が応分な負担となるよう、収支構造の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

スコアの購入等一部の自己負担があったが、平日の部活動で費用を負担しているため、本事業において追加費用を求めなかった。
学校が保有している楽器やICT設備を活用したため、指導者報酬以外に要した費用はほぼなかった。

今後の課題と対応方針

スコアの購入等一部の自己負担のほかには参加費用を求めなかったため、生徒や楽団員からは好評だった。

現在、中学校の吹奏楽部の楽器を使用して練習、活動を行っているが、楽器の更新やクラブ活動において破損した場合の修理費用等について、費用負担をどうするか検討を行っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

蘭越中学校を使用する。

取組の成果

生徒や楽団員また楽器を移動する負担を考え、中学校の理解を得た上で、中学校の音楽室を練習場所に定めた。
学校で練習するに当たり、鍵の管理を教育委員会で行った。

今後の課題と対応方針

練習場所を中学校としたことで、利便性がよく生徒や楽団員からは好評だった。

中学校を練習場所とすることで、練習時における楽器の運搬が不要となり、鍵やICT機器を教育委員会が一括管理したことで、中学校の開閉錠や機器の設定・調整も滞りなく実施できたため、次年度以降も中学校を練習場所に選定したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

指導者の属性や配置の工夫

- ・指導者の属性
中学校部活動の顧問や部活動指導員
- ・配置の工夫
特に配置は工夫していないが、中学校部活動の顧問や部活動指導員が率先して指導者として登録した。

取組の成果

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

指導員を中学校部活動の顧問や部活動指導員が兼ねることで、中学生へのクラブでの指導や連絡調整等を円滑に行うことができた。

今後の課題と対応方針

その他の取組についても今後検討を行うが、指導者として中学校部活動の顧問や部活動支援員の協力が得られなければ、クラブの円滑な活動は困難なため、現在の指導者に代わる指導者の養成が課題である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

楽団員17人（中学生14人、地元住民等3人）で中学生だけではなく、大人も含めたメンバーで土曜日に練習し、うち3日はICTを活用して大医学の音楽学科の教授や学生から楽器ごとの細かい指導を受けることができた。

地方の小さな中学校の限られた人材の中、子どもたちが吹奏楽を楽しめる環境を整備することで、豊かな文化活動を行い、高度な芸術に触れる機会をつくることで、子どもたちの充実した活動を保障し、地方に住むことの劣等感を払拭し、多くの人からの評価を得る経験を積む機会を提供することができた。

●成果の評価

子どもたちは勿論、保護者や中学校の教員、地域住民が吹奏楽クラブに着目し、子どもたちの音楽活動の自信につながった。

また、後進の育成や新入生の勧誘機会のきっかけにもつながった。

さらに、中学校部活動の顧問や部活動指導員にとっても自身が指導できない楽器の取扱いを地域の楽団員やICTの活用により子どもたちに指導されたことで、時間的、精神的な負担の軽減が図られた。

●今後に向けて

地方の小規模校においても充実した吹奏楽活動を子どもたちに体験させてあげたいという趣旨で令和5年度に引き続き実証事業を行い、中学校、地域、子どもたちとその保護者、連携大学の理解をいただき、高い評価を得ている。

今後の地域移行に向けて継続的な活動ができる素養を子どもたちそれぞれに身に付けさせる環境を構築することで、教員の手を借りなくとも、地域の楽団員や大学生などによりたくさん子どもたちが充実した活動ができるよう進めていきたい。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

アンケートは未実施だが、練習後や出会において、指導者及び保護者よりヒアリングを実施。

●参加者の声

指導者

練習内容の反省と進め方、成果・達成度、子どもの様子について、おおむね好評（毎回、練習後に聴取）

保護者

子どもの反応、意欲、家庭での理解について、高い評価と継続実施について要望が多い（都度、出会で個別に聴取）

16

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【10月14日 大学生対面指導】



【10月14日 合同演奏会リハーサル】



【10月14日 合同演奏会】



【10月14日 合同演奏会】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
検討開始

指導者の選定、
拠点校の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の継続

●ステークホルダー

蘭越町教育委員会
札幌大谷大学芸術学部
蘭越中学校

●経過

地方においても質の高い音楽の指導が受けられるよう、吹奏楽への興味関心が深まり、中学校の部活動の枠組みを超えて、多くの世代が参加できるよう、蘭越町地域吹奏楽活動協議会を設立し、吹奏楽クラブ活動の実施に向けて検討を始めた。

●実施にあたって生じた課題

吹奏楽部で活動する中学生も減少し、十分な活動ができないほか、地域の小学校や高校にも吹奏楽部が存在せず、生涯学習サークルで数名が活動している中で、吹奏楽クラブを設立しても、構成員が満足できる活動が展開できるか課題であった。

●実施内容、工夫した点 等

教育委員会が中心となって、各種団体と連絡調整を行い、吹奏楽クラブの円滑な運営に努めた。

指導員に中学校の吹奏楽部の部活動指導員を充てたほか、町が包括連携協定を結んでいる札幌大谷大学の協力を得て、質の高い音楽の指導をICTを活用して受けられるよう調整を行った。

生徒や楽団員、楽器移動の負担を軽減するため、練習場所を中学校で行うこととした。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域における休日の文化部活動の段階的な文化クラブ活動への意向の着実な実施に向けて、文化芸術環境の整備方策や自治体・学校・保護者・関係団体などの関係者の役割分担の整理を図り、地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップの作成を検討する。